

留学報告書 ～留学ならではの苦悩と幸せな時間～

華東師範大学
国際文化学部生（中期）

私は中国上海市にある、留学生の多さと美しいキャンパスが特徴の華東師範大学で約4ヶ月の留学生活を送りました。長いようで短かった留学でしたが、非常に新鮮で充実した日々を過ごすことができました。

私は留学にチャレンジをすることが以前からの目標でした。そのため、参加することが決まった時はとても嬉しく、ワクワクしていました。ですが、私の中国に対するイメージは決して良いものではありませんでした。例えば、対日意識が強い・汚い・気が強くて荒いなどです。これらのようなネガティブな印象があるだけでなく、初めて親元を長期間離れるので、怖さや不安を抱えて留学生活が始まりました。



【キャンパス内にある毛沢東像】



【授業の様子】

授業が始まって最初の1ヶ月は、何も聞き取ることができず答えられないことが何度もあり、毎日悔しい思いをしました。クラスメイトが何を話しているのか少しでも理解したいと思い、帰宅後すぐに寝てしまうくらい必死に授業に取り組みました。授業だけでなく、街中でも聞き耳を立てたり景色を目に焼き付けたり、現地の雰囲気をとくさん味わうような心がけました。

9月29日から10月6日まで『国庆节』という建国記念日と、『中秋节』と呼ばれる中秋節が重なり、長期休みがありました。この期間に様々な場所へ出かけました。2023 アジアオリンピックが開催されていた杭州市や、Starbucks Reserve Roastery、上海ディズニーランドに行きました。中国に到着して初めての休暇と遠出だったので、どう過ごすか何度も考えたりリフレッシュしたり、再開する授業に向けて気持ちを整えたりしました。



【上海ディズニーランド】



【世界に6店舗しかないスタバ】



2ヶ月が経とうとしている頃には中国語が徐々に理解できているなど感じる機会が増え、中国のライフスタイルに慣れてきました。例えば、翻訳アプリを使わずに自分が使える単語や文法を用いて質問できたことです。日本で学んだ時に比べて学習する単語数が何倍も増えましたが、それをすぐに実践できる場があるということが、とても良い経験だったと思います。

中国の生活スタイルで印象深いことはたくさんありましたが、一般的に日本人にはあまりない、ざっくばらんな彼らの性格にいくつもの驚きがありました。気になることがあれば道行く人に突然聞いたり、行列で少しでも隙間があると入り込んだり、納得のいかないことがあるとその人に対しストレートにぶついたりしています。

日本には『付度』という言葉がありますが、中国では率直に意見を言い、遠慮をせずありのままに関わり合っているように感じられました。自分の思いを素直に、誰にでも伝えることは難しく、日本人はあまり馴染みがないと思います。そのような環境で過ごせたことはとても新鮮で戸惑うこともありました。しかし、過ごしていくうちに以前よりも堂々とした姿勢を持つことができ、上海に到着した頃より毎日がすごく楽しくなりました。

現地の人とコミュニケーションを取り、その場所の文化に合わせて生活することは辛さだけではなく、喜びや新たな発見、自分の成長につながるものがありました。一日一日がとても充実していたので、半年間の留学期間はあっという間でした。好きなことが学べて、行きたい所にいける生活が夢見心地で、帰りたくないと思う日々が続きました。

私のクラスは日本人とイタリア人、ロシア人が多かったです。また、聞いたことがなかった国出身の人もいて、あまり経験することができない環境にいたのだなと改めて感じました。



【←明るくてかっいいいクラスメイト】

クラスメイトと関わるのが一番多く、ロシアの子は『進撃の巨人』が好きということで話が盛り上がり、ロシアのパンケーキを紹介してくれました。

韓国人の子は何気ない会話を毎日のようにして、上海でお薦めの焼き小籠包屋を紹介してくれました。テスト期間には、仲良くなった日本人の子と3人でごろごろしながら勉強会をしました。

タイ人の人は授業の休憩時間になると毎日フルーツやお菓子をくれました。みんなで「今日は何かな？」と楽しみにしていました。この他にも同じ寮に住んでいる子がいたので、寮内で会うと声をかけてくれたりお話してくれたり、良い関係が築けました。

私たちは留学生用の学習コースだったので、中国人の学生と関わるのが全くありませ

んでした。しかし、同時期に韓国へ留学していたNGUの友達が、留学中に仲良くなった中国人と私を繋げてくれました。「電話してみない？」と提案してくれたので、ビデオ通話でいろいろな話をしました。その中国人の子たちは上海の学校出身だったので、NGUの友達と必ず会いに行くと約束しました。まさか、このような繋がりがあると思っていなかったのに、NGUの子に感謝しています。

中国は全ての規模が大きく、便利なものが多かったです。そして、食は軽食が街中に沢山あり、その安さと手軽さが魅力的でした。

上海地下鉄は凄くきれいで、運賃は非常に安く、車両によって空調温度が違う電車がありました。また、車内幅が広いので過ごしやすく、扉の安全面が厳重だったため、日本のように駆け込み乗車をする人がほとんどいませんでした。

【↓东林寺】



寺や大仏は、奈良県の大仏より大きい場所が少なく、装飾が派手な寺や参拝する人の熱心さに圧倒され、彼らの神様への信仰心を感じられました。

中国では電子決済が当たり前のため、バス・電車はもちろん、店内での注文やお賽銭もQRコード決済です。中国のキャッシュレス社会を感じる瞬間でした。

金曜日の夜は外食をしに気になるお店へ行き、土日のどちらかはバスや電車に乗り、外出をするという生活をしていました。どれもが美味しかったのですが、紹介したいのは『西红柿炒鸡蛋』と『葱油饼』です。



【西红柿炒鸡蛋】



【葱油饼】

1つ目は卵とトマトに塩などを加え、炒めるだけの家庭料理です。少し甘くて、トマトのさっぱりとした味わいに箸が止まりませんでした。

2つ目は中国でよく使用されている、ネギ油を使ったパイのような軽食です。お店によって食感が違うので食べ歩きをして楽しみました。他にも、もう一度食べたい物があるので、家で作り、機会があればまた上海に訪れたいです。

中国のキャッシュレス普及率は非常に高く、携帯がないと生活するのが難しい国です。また、顔認証システムも多いため、思うように生活ができず、制限があるように感じ不安に陥られるかもしれません。しかしその反面、上海は外国人観光客や商業施設が多いため、気軽に買い物ができ、交通の便利さと物価の安さ、外国人の過ごしやすい環境などが整っているなど感じました。



【昼の外灘】



【授業最終日に教室棟の前で】

留学生活は、私が想像していたよりも楽しく、当たり前だと思っていたことが通用しない、驚きが絶えない日々でした。相手に思い伝えられない状況に初めてぶつかり、言葉の壁の高さを感じました。また、文化も違うので、授業でお互いの国について話し合う機会はネットの情報ではなく、生の声が聞けるため国際理解の大きな糧になりました。この経験は何度も体験できることではありません。挑戦するための今までの努力と家族の協力があったからこそ、です。

上海での学びが水の泡にならないよう、中国語資格のレベルアップと日中文化の理解に努めていきたいです。そして、この留学を通して他の国にも興味を持ったので、少しでも色々な文化に触れることができたらいいなと思います。

堂々とした前向きな姿勢と向上心を持って、家族にその姿を見せるとともに、将来に向かって進んでいきたいです。